



「毎日の育児、大変だけど、この子の笑顔を見ていると、いやされます♥」
松瀬 里奈ちゃん（旭が丘）
H15.8.29生



「吉田小学校のみんな元気？私たちは元気！」
徳山詩織ちゃん（吉田）
森田菜緒ちゃん・森田のどかちゃん（関戸）
H7.11.17生
H7.10.16生・H7.2.27生



「まや保育園の先生方、大変お世話になりました。」
木山 満就ちゃん・喬介ちゃん・
陽加里ちゃん（美の浜）
H10.6.2生・H14.4.6生・
H12.9.23生



「じっと見つめていると、得意気になって手、足を左右に激しくばたかせて喜んでいきます。」
後藤 すずちゃん（広島県）
H15.9.21生



「二人共、いつまでも仲良くね」
小林 祐大ちゃん・
桃子ちゃん（大島中）
H11.2.15生・H15.4.10生

「宝物」はその人にとって、かけがえのない人（子ども）であったり、可愛いペットであったり、他人には思いもつかない「物」であったりすると思います。そんな宝物の写真を一言メッセージを添えて、まちづくり推進課まで送ってください。

展覧会のご案内

「岡山の美人画家大林千萬樹」展
会期：4月24日（土）～
6月6日（日）

岡山出身の美人画家、大林千萬樹の作品を中心に、伊東深水、上村松園らの作品も。連休期間中も開館しています。



〒714-0087
岡山市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「京美人之図」
目の前を飛ぶ蝶を追って小さく駆け出しそうな足元、慎みをふくんだ手のしぐさと少しかしげた首、桃割れに結った髪などがとても愛らしい。作者の上村松園は京都生まれの女流画家で、昭和二十三年（一九四八）に女性で初めての文化勲章を受章した人物である。女性ならではの言っているものの、藤の花の浮かぶやわらかな着物や黒髪を際立たせる簪など、細部にまで趣味を尽くした装いが、この少女をより愛しいものに見せている。
明治八年（一八七五）に生まれた上村松園は、はじめ鈴木松年に絵を習い、次いで幸野柳湖、竹内栖鳳に師事している。明治三十六年（一九〇三）に栖鳳塾に入った小野竹高にとって先輩にあたる。風景を専らとした竹高に対し、松園は生涯女性美を探究したが、「単にきれいな女の人」ではなく、「二点の卑俗なところもなく、清澄な感じのする香り高い珠玉のような絵（青嵐抄）」を描こうと努めた。その姿勢は、この若い京の美人の姿にも映し出されている。



竹喬美術館の光彩16

うゑむらしゅうえん
上村松園 作
明治35（1902）年
109.1×39.8cm
個人蔵（竹喬美術館寄託）



発行／岡山市役所
編集／まちづくり推進課
〒714-8601岡山市中央町1-1
☎69-2110

春は出会いと別れの季節。卒業式や入学式、就職、退職など、この春、大切な人やものとの心の思い出に残る「出会い」や「別れ」を経験した人も多いのではないだろうか。今年、花の散る散るが例年に比べて少ないそう。花粉症の私にとっても、はうれしいかぎりです。花粉症、いつまでもこの時期、体中の水分が鼻水や涙となつて体外に放出されているのですが、今のところ目が少しかゆい程度の症状で治まっています。このまま花粉症が治まれば、私にとってうれしい「別れ」になるんですが。

係から

三月十三日（土）、好天のどんぐり球場で「少年野球教室」がありました。岡山県出身の元プロ野球選手や、川崎製鉄など実業団で活躍された人を講師に、井立・浅口地区の中学校野球部の生徒と、少年野球チームの学童の約二六〇人が参加して行われたものです。午前中には、アップと各ポジション別の指導、午後には指導者対中学生選抜チームの紅白戦がありました。指導者のおかげで中学生チームが勝利しました。この中から、今年の甲子園センバツ大会で活躍した岡山県東部の藤原くん、結城選手が出るというですね。それはそうと、この写真はうちの若い衆が選んだ写真ですが、私を知っている人は「また、桑田さんが！」って言われそうだなあ。

今月の表紙